

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人
第5学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

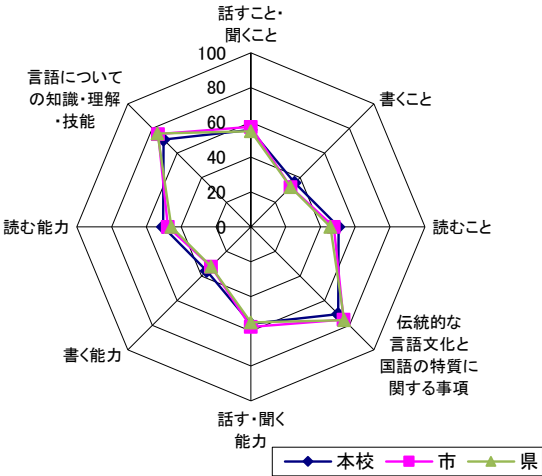
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	55.7	57.5	54.9
	書くこと	35.7	32.3	32.3
	読むこと	50.4	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.9	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	55.7	57.5	54.9
	書く能力	35.7	32.3	32.3
	読む能力	50.4	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	70.9	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

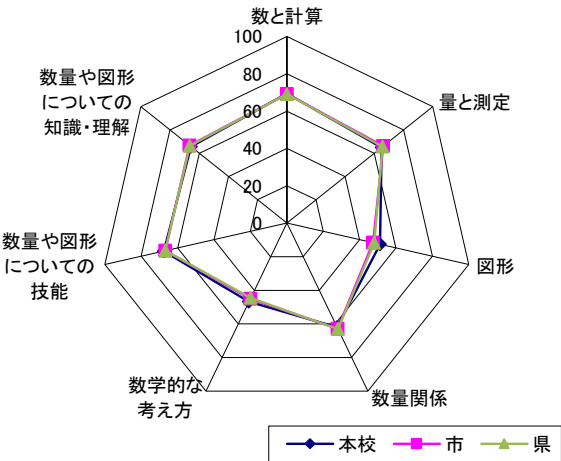
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	本校平均正答率は、55.7%で、県のそれよりやや高かった。 ○話の中心に気を付けて聞いて意見を述べたり、進行に沿った話合いをすることは大体できている。 ●なぜその意見なのか、理由を記述することができなかった。	・今後も、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞く力をつけるため、学習全般や生活の中で、短い言葉でメモを取る習慣をつけるように指導する。 ・話し合いの際には、自分の意見とその理由をしっかりとって参加するように声をかける。
書くこと	本校平均正答率は、35.7%で他領域に比べて低い、市や県のそれよりは高くなっている。 ○メモをもとに報告レポートの記述をすることができた。	・書くことへの抵抗をなくすために、単元の終わりに出てくる短文作りを繰り返し行ったり、行事などの後に絵日記などを宿題に出したりする。
読むこと	本校平均正答率は、50.4%で県や市のそれより高くなっている。 ○物語文においては、登場人物の気持ちを想像して読むことができた。 ○説明文においては、文章を大きなまとまりに分けて読んだり、文章を要約したりすることができた。	・物語に興味・関心をもてるように、朝の読書タイムで様々な物語を紹介したり、学校図書館の積極的な活用を促したりする。 ・説明文の形式段落ごとの内容をまとめることができるような学習プリントを活用し、中心となる語や文をとらえて要点をまとめられるように引き続き指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	本校平均正答率は、70.9%で他領域に比べて高い、市や県のそれよりはやや低くなっている。 ○第3学年配当漢字の読みはできていた。 ●「市場」という漢字を書くことができない児童が多かった。 ●正しいローマ字を選ぶことができない児童が多かった。 ●国語辞典の使い方ができていなかった。 ●会話文における「」の使い方ができていなかった。	・全授業において、習った漢字は積極的に漢字を書くことを意識させ、授業を行う。また、国語スキルタイムや宿題、自主学習の中で、既習漢字の読み、書きの練習を繰り返す。 ・パソコン室のキーボードでローマ字を打って練習する機会を設ける。 ・国語辞典の使い方を確認すると同時に、単元の始まりにはなるべく国語辞典を使って意味調べをさせる機会を多くとるようにする。 ・作文用紙の「」の使い方を確認する。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.4	69.2	69.1
	量と測定	65.0	66.1	65.6
	図形	51.2	47.4	48.0
	数量関係	62.0	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	46.7	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	67.6	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	65.7	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

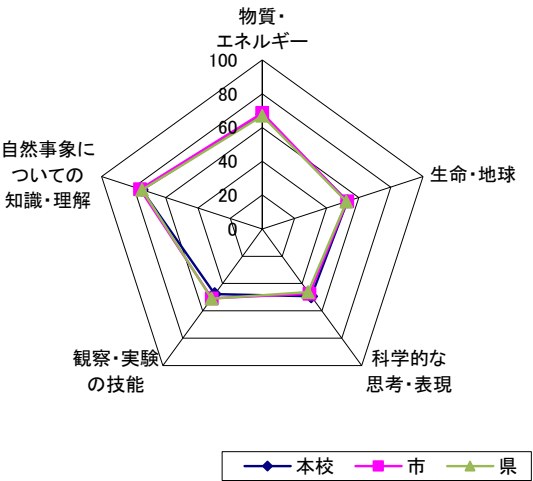
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、他の領域と比べて高い。 ○与えられた文章の流れ通りに式を立て、かけ算の式において順番と意味を正しく理解できている。かけられる数とかける数の意味を言葉の式等で繰り返し学習してきた成果だと考えられる。 ●数直線上の目盛りから数量を読み取ることにについて課題がみられる。	・今後も立式の際、意味を一つ一つ確認しながら学習していくことで、与えられた文章に対して正しく演算ができると考えられる。 ・数直線のひと目盛が表す大きさを読み取れるようにしなければならない。数直線が目に触れる機会を増やしたり毎回ヒントとなる数量を一緒に考えたりすることで、継続的に指導し理解できるようにする。
量と測定	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。時間の換算や電車の発車時刻の読み取りなどについて、大きな課題はみられない。 ●はかりの目盛りを正しく読み取ることに課題がみられる。これは「数と計算」領域の、数直線の読み取りとも相関関係があると考えられる。	・1目盛りが表す大きさはいくつかが分かるように確認し、それが分かるような指導の工夫を図る。また具体物の操作や数の読み取りの活動を積極的に取り入れる指導を継続していく。
図形	平均正答率は、市や県の平均よりやや高い。コンパスや定規の使い方について、大きな課題は見られない。 ○コンパスを使う良さや円の性質を正しく理解している。また、その性質を利用して二等辺三角形を描くことができることなどについても理解できている。	・図形の学習において、今後も円の性質を利用することがあるので、一つ一つ基本に立ち返る時間を作っていく。 ・今後もコンパスや定規の扱い方を丁寧に指導し、三角形・四角形の性質を考えながら正確な作図ができるよう指導を徹底していく。 ・具体物を操作させる活動を意図的に取り入れて、円や球に対する見方や考え方を広げていく。
数量関係	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○「□を使った式」にする場面が分かり、それを与えられた問題の通りに立式することができる。 ●表をグラフに表し、目盛りを設定したりグラフからさらに考えたりすることに課題がある。	・表をグラフにまとめる際にも、まずは目盛りを設定したり正しく読んだりできるように、丁寧に確認していく。またグラフは他教科でも資料として登場する場面があるので、それらも大切にしていける。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.9	68.6	66.9
	生命・地球	52.9	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	49.3	47.4	46.2
	観察・実験の技能	47.8	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	75.0	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の正答率とほぼ同じである。 ○「電気の通り道」では、豆電球のあかりのつく回路の選択や推測、またあかりがつかない理由の説明がよくできており、豆電球に明かりがつくつなぎ方の確認が確実になされていると考えられる。 ●「磁石の性質」では、磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことの理解や、ものづくりで利用している磁石の性質の理解について課題が見られる。	・今後も観察・実験においては、安全面の指導を徹底し、その上で自分なりに工夫して観察・実験したり、観察・実験から考察したりする経験を多く積むことができるようにする。 ・まとめや振り返りのときに、自分の言葉でわかったことなどをまとめさせ、理解を深めるようにさせる。
生命・地球	平均正答率は、市や県の正答率とほぼ同じである。 ○「昆虫と植物」では、昆虫の体のつくりや育ち方についての知識が定着し、観察記録をもとに昆虫を選択し理由を説明することがよくできている。 ●「太陽と地面の様子」では、方位磁針の適切な操作方法に課題が見られる。	・単に知識を記憶するだけでなく、観察・実験の機会を多く設けるとともに、一人一人が確実に器具の正しい操作方法を身に付け、操作し経験できるように指導の工夫を図る。

宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力の中で「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」については、県や市の肯定割合を10ポイント以上上回っている。今後も学習意欲を高め、学びに向かう姿勢を継続できるように、導入の工夫や少人数指導を効果的に取り入れていきたい。

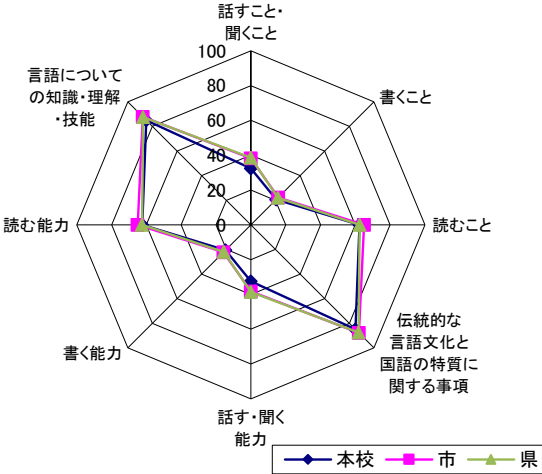
○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は、県や市を10ポイント以上上回っている。話し合い活動を学校課題として取り組んできた成果が表れている。今後は、一人一人の意見をつなぐことができるように、話し合いの充実に努めていきたい。

●「基本的生活習慣で「早寝、早起きを心がけている」と回答した児童の割合は、県や市を下回った。今後も、生活習慣や家庭学習などでも、学校と家庭が連携して児童の成長を見守り、よさを伸ばす指導をしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	32.4	38.3	38.5
	書くこと	20.7	22.3	21.9
	読むこと	62.4	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	84.9	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	32.4	38.3	38.5
	書く能力	20.7	22.3	21.9
	読む能力	62.4	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	84.9	87.8	87.5



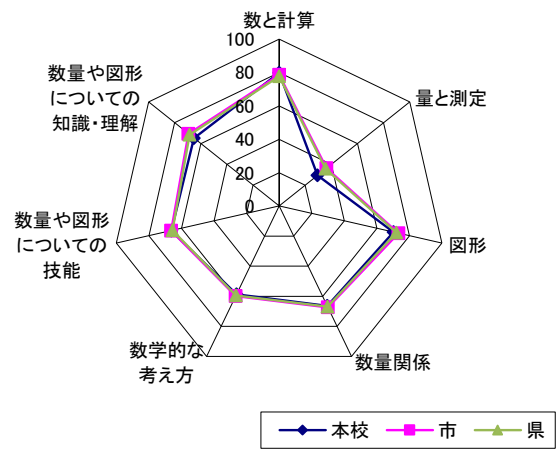
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は32.4%で、市の平均より低い。 ○考えの共通点や相違点を整理しながら聞くことは、ある程度できる。 ●話し合いにおいて、司会者の役割を理解し、進行する力が不足している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業や学級活動において、司会者をたてて話し合う活動を多く取り入れ、誰もが司会の経験を積めるようにし、司会の役割を理解できるようにする。 ・討論の学習で、話し合いの手順をしっかりと理解させ、計画を立てて実際にやってみることで、今後の話し合いに生かせるようにする。
書くこと	平均正答率は20.7%で、市の平均よりやや低い。 ○メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れることはできる。 ●文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る力が不足している。	・総合や社会などで、調べたことをまとめる活動を多く取り入れ、構成や内容の工夫を意識させるようにする。また、できたものを見せ合ったりすることで、友達の工夫を参考にできるようにする。
読むこと	平均正答率は62.4%で、市の平均よりやや低い。 ○文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用することはできる。 ●文章の中心を捉えたり、筆者の考えを想像したりする力が不足している。	・読み取りの際、段落ごとの要点をまとめるだけでなく、それらがどのように関連付けられているかや、どのような構成になっているかを常にとらえさせるようにする。 ・スキルタイムには、教科書をまとめるなどの活動を多く取り入れ、大切なことを的確にまとめられる力を伸ばす。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は84.9%で、市の平均より若干低い。 ○漢字の読みや、接続語の役割については、ほぼ理解している。 ●漢字辞典の使い方が理解できていない。	・身近に漢字辞典や国語辞典を置いておくようにし、読めない字や意味が分からない言葉は、人に聞かずに自分で調べるようにさせ、辞書を引くことを習慣化させる。 ・家庭学習でも、難意語の調べ学習を多くさせ、慣れさせるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.8	78.6	77.7
	量と測定	29.4	36.3	35.7
	図形	70.3	73.3	72.1
	数量関係	66.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	58.8	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	66.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	65.3	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

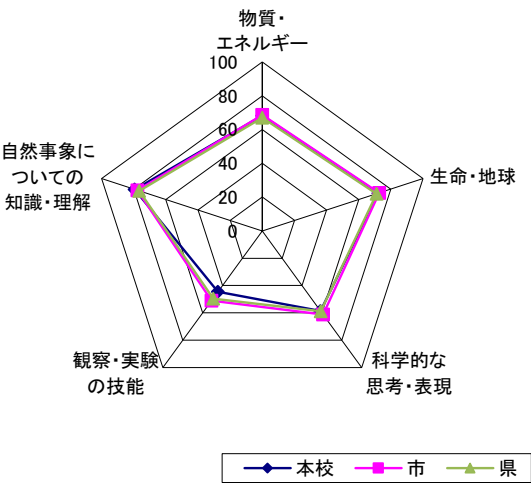
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、79.8%で県や市よりわずかに上回っている。 ○3位数÷2位数の計算や小数×1位数の計算は、県より高い正答率であった。 ●小数の割り算や概数の求め方に課題が見られる。	・計算の基礎基本の徹底を図るため、今後もTTや少人数指導を実施し、それぞれのつまずきを把握しながら個別指導を強化していく。 ・家庭の協力を仰ぎながら、子どもの学力に応じた計算練習の課題を用意する。
量と測定	平均正答率は、29.4%で県や市より下回っている。 ○180°より大きい角度の求め方は、県・市と同程度の正答率であった。 ●教室の机のおよその面積を求める問題の正答率は、28.4%と県・市より低く量感覚に課題が見られる。 ●複合図形を求める方法の説明の仕方に課題が見られる。	・公式の理解はできているが、それを身の回りのものに生かせていないので、実際に身の回りの物の面積を調べるなど実感を伴った理解となるようにしていく。 ・問題をただ解くのではなく、友達同士で聞き合い、伝え合う活動を通して思考・判断・表現する力を育てていきたい。
図形	平均正答率は、70.3%で県や市より下回っている。 ○立方体の展開図を完成させ、平行になる面を求める問題では、89.2%と高い正答率であった。 ●定規とコンパスを用いて、平行四辺形を完成させるかきかたに課題が見られた。	・一人一人に立方体や直方体などの準備物を用意し、体験的に学べる活動を増やしていく。 ・平行四辺形や台形、二等辺三角形などの様々な四角形や三角形の性質をしっかりと理解させ、コンパスや分度器などの用具の使い方を確認する。
数量関係	平均正答率は、66.4%で県・市より下回っている。 ○折れ線グラフの正しくない説明を選ぶ問題では、75.7%と県や市の正答率を上回った。 ●基石の並べ方から規則性を見つけ、式に表す問題に課題が見られた。	・表からグラフを作成していく際には、1目盛の大きさや変化の仕方など丁寧に確認をしていく。 ・ペアやグループで話し合う時間を設け、考える時間を増やし思考力を高める。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.2	68.6	67.0
	生命・地球	72.3	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	58.6	61.2	58.8
	観察・実験の技能	44.6	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	79.4	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、68.2%で、県や市とほぼ同等である。 ○金属の温まり方についてはよく理解できている。 ○光電池の働きと、光の強さの関係がよく理解できている。 ●へこんだピンポン球を温めると元に戻る理由を考察する問題ができていない。 ●水蒸気と水中の泡の関係についての理解が低い。	・水や空気が温まった時の状態を、実験を通して理解させ、きちんと整理することで、正しい知識として身につけさせる。 ・現象をしっかりとらえたとともに、そのようになった理由を説明できるように、筋道立てて言葉で整理させるようにする。
生命・地球	平均正答率は72.3%で、県や市を若干上回っている。 ○季節による生き物の様子の違いを正しく理解できている。 ○時間ごとの月の動き方がよく理解できている。 ●方位磁針の正しい使い方が理解できていない。 ●星座の動きを捉えるための、正しい記録方法が理解できていない。	・観察や実験などの際に、器具の使い方をしっかりと理解させ、全員が体験できるようにする。 ・結果を出すことと同時に、その過程も大切にし、正しく観察したり、記録を取ったりすることで、結果もより正確になることを意識させるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学校での学習について、「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「学習に対して、自分から取り組んでいる」の設問について県の肯定割合を上回っている。今後も、子どもたちが自ら取り組み生活の中で生かせるような教材教具の工夫を図っていききたい。

○「学級の時間に話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」の設問について県や市の肯定割合を上回っている。今後も、子ども達一人一人の意見を大切にしながら学級経営を行っていききたい。また、よりよい活動になるように話し合い活動の充実に努めていききたい。

●学校での様子について、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問について県や市より肯定割合が低い。学級内での係活動や当番活動を見直し、自己肯定感を高められるようにしていききたい。

●学校での学習について、「クラスは発言しやすい雰囲気である」の設問について県や市より肯定割合が低い。間違ってしまったても大丈夫な雰囲気づくりに努め、ペア学習などを取り入れ自信をもって発言できるようにする等の支援をしていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく表現する力の育成	すべての学年で、ペアやグループで互いの考えを伝え合ったり、相談したりする場を意図的に設けたり、自分の考えを言葉で書き表す活動を多く取り入れたりする。	4・5年生ともに「グループでの話し合いに進んで参加している」の質問の肯定割合は、県や市と比べ高い。4年生の国語の記述式の平均や「書くこと」の領域の平均も市や県より高くなっている。
基礎基本の確実な定着を図る指導	朝の学習の時間にスキルタイムを設定し、漢字や計算の習熟の機会を確保し、個別の指導も同時に実施して指導している。	算数の「数と計算」の領域の平均が、4年生はわずかであるが5年生はやや上回っている。国語の「言語についての知識理解技能」の観点については、4・5年生とも市や県の平均を下回っている。
家庭学習の習慣化への指導	家庭学習のヒント集で、低・中・高で目指す家庭学習の時間や内容を知らせ、学年に応じて、宿題以外にも自主学習に取り組ませる。家庭学習カードに記入し習慣化を図るようにする。	アンケートによると、「家で計画を立てて勉強している」の質問に対する肯定割合は、4・5年生ともに市や県より5ポイント以上高い。4年生は、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問の肯定割合が、市や県より10ポイント以上高く、家庭学習への意識の高まりがみられている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語辞典や漢字辞典の使い方、方位磁針や秤などの用具の使い方、市や県の平均を5ポイント以上下回るものがあつた。	操作活動の時間の確保 辞書活用の習慣化	算数などの用具を扱う学習では、操作活動を十分時間を取り指導する。時計・ものさし・秤などのよみ方などの指導を低学年から徹底して行う。 3年生から自分の辞書を教室に置き、言葉を調べる習慣をつけ、言語への関心を高める。